

北星学園大学

後援会だより

VOL.107

発行日 2011年12月1日
 発行者 北星学園大学
 後援会事務局
 札幌市厚別区大谷地西2
 丁目3番1号 〒004-8631
 電話(011)891-2731
 印刷(社福)北海道リハビリ



父母懇談会報告

地区別

地区別父母懇談会が終了!

後援会の一大事業でもあります地区別父母懇談会が、今年も道内七ヶ所で行われ、十月二十九日に行われた第二回札幌地区をもちまして、無事終了いたしました。

今年度は、全会場合計で五〇〇組近くの申し込みがあり、前年度に引き続き多くの方々にご参加いただきました。全体会では大学の近況報告、修学関係についての説明があり、最後にご父母の皆様が強く関心をお持ちの就職状況について報告がありました。また、地方会場での個別懇談までの待ち時間では、ご父母同士での情報交換やご欲談できる良い機会となった他、就職支援課による個別相談にもご参加いただきました。参加されたご父母の皆様からは、成績・就職関係はもろろんのことですが、特に離れて暮らされている方にとっては、普段の学校生活について知る機会となり、大変参考になったという声が多くありました。

父母懇談会では毎回アンケートの記入をお願いしておりますが、今年も多くの感想や労いのお言葉をいただきました。その一部をご紹介します。

アンケートの中にはご指摘やご要望などもあり、貴重なご意見とし、今後の改善すべき点として努めていきたいと思っております。これからの、より多くの方々にご参加いただけるような父母懇



地方会場の様子(函館)

談会を目指して参りたいと思います。

来年度の日程は、決まり次第『後援会だより』でお知らせいたします。今年参加できなかった皆様もぜひ足を運んでください。どうぞよろしくお願いいたします。

子どもの様子を知る事ができて良かったです。私はかつての卒業生で、学生時代に当時の就職課にも大変お世話になりました。現在でも変わらず、力を注いで下さっているのだと感じ安心しました。親子共々お世話になりました。ありがとうございます。

厳しい就職状況ですが、先生方の力強いお言葉に安心いたしました。また、大学生活を感じる事が出来、参加して良かったと思えました。

とても気さくに話していただき、感謝しております。まだ一年生なので、大学生活のことは親も漠然としていますが、何か安心しました。

同僚部の学年違いの方達のお話なども聞けるので、出席して良かったと思えます。二年連続来ましたが、来年も出席したいと思えます。

先生と近くなったような気がしてとても嬉しいですね。来年も又来ます。子どもも学校、サークル、すべて楽しんで下さい。

個別懇談でいろいろなお話を聞くことができました。参加しなければわからない事ばかりだったので、参加させて頂いて本当に良かったと思えました。



個別懇談の様子(旭川)

学年は違っても他の父母の方と話ができ、悩みはいろいろあるんだと思えました。また、先生方が熱心に話を聞いてくださった事が嬉しかったです。

なかなか子どもから話が聞けないので、どうしても情報不足です。今回参加して良かったです。二年間と短いですが、先生方が熱心なので安心しました。

このような保護者に向けての成績、就職について細やかなサポート体制があり、大変ありがたく思います。なかなか直接先生とお話できる機会はありませんから、貴重な情報を得ることができました。昼食つきでとても良い会であったと思います。



全体会の様子(10月札幌)

卒業記念祝賀会のご案内

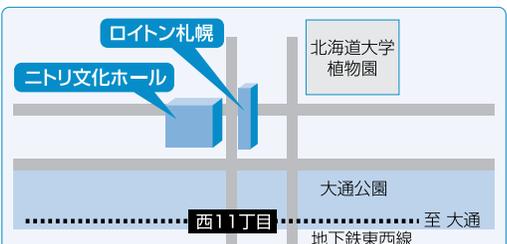
2011年度卒業式・卒業記念祝賀会が下記のとおり挙行されますので、ご案内いたします。ご父母の方も是非ご出席ください。

卒業式

日時: 2012年3月15日(木)
 全学部 13:00予定
 場所: ニトリ文化ホール(旧さっぽろ芸術文化の館)
 (札幌市中央区北1条西12丁目)

卒業記念祝賀会

日時: 2012年3月15日(木)
 全学部 16:30予定
 場所: ホテルロイトン札幌
 (札幌市中央区北1条西11丁目)



星学祭を終えて

第50回大学祭実行委員会
 委員長
 山本 将也

今年度の星学祭も、関係者の方々の多大なご支援とご協力のおかげで無事終了することができ、さらに今年度星学祭は第五十回を迎えることが出来ました。今年度は二日目によるこい演舞を予定していましたが、突如の雨で急遽生協二階で行いました。そのことに関しましてご来場の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

しかし今年度の星学祭は、例年以上に子どもからご年配の方まで、全ての世代の方にご来場していただき、主催者側としましては大変嬉しく思います。

参加できるイベントなどにより、多くの方に喜んで頂けたと感じております。そして学生の積極的なご協力も多く得られたことも嬉しく思います。今年度の星学祭は地域の方々や委託イベントに参加して頂いた各団体、そして学生支援課の皆さんの多大なご協力によって例年以上の大盛況のうち幕を閉じることができました。これに満足することなく、より一層の発展を目標に、また一から星学祭を築いていきたいと思っております。そして、第五十回北星学園大学・北星学園大学短期大学部星学祭を開催するにあたり多大なご協力・ご援助して頂いた協賛主様や広告主様、各サークルの皆様、学校関係者の方々との場をお借りして厚く御礼申し上げます。最後になりましたが、後援会からも「北星学園大学のサポーター」として、ご協力いただいたことに、厚く御礼申し上げます。そして、今後も皆様にとってよりよい思い出となるような星学祭にするために、私たち大学祭実行委員一同努力してまいります。



星学祭終了後 メンバー集合



経済学部 経済学科

河野 実咲

内定先：株式会社北洋銀行

私は本格的に就職活動を始めたのが周囲の人よりも遅く、三月頃から興味のある企業の説明会などに参加するようになり、周りに流されず自分のペースで就職活動ができたことは、私にとっても重要なことだったと思います。

初めのうちは、エントリーシートが通らず、マイナスに考えてしまうこともありました。私はそうだった時一人で悩むことはせず、就職支援課の方や友人、家

度も足を運び、就活本も十冊ほど読んで情報を集めました。二つ目は身だしなみ。説明会に行くときと同じ服装、同じ髪型ですが、清潔感がある人や背筋の伸びた人は目立ちます。普段から背筋を伸ばし、口角を上げて多くの学生の中でも、企業の方に良い印象を残せるよう意識しました。内定を

頂いた企業の方から後日、「あなたが説明会に来たことは覚えてます」と言っていただけでした。最後に気持ちの切り替えです。手応えのあった面接、懸命に書いた履歴書で不合格だった時は非常に落ち込みました。しかし、「たまたまこの会社は私に合わなかったのだ」と思い、常に前向きに取り

組むことを心がけました。族などに話を聞いてもらっていました。アドバイスをもらって、精神的にも楽になり、自然とやる気が出てきます。エントリーシートや面接において共通して言えることは、「自分で考え、自分の言葉で書く、話す」ということです。内定を頂いた後は自分で考えたものか、自分の言葉で話しているかどうかかがわかるそうです。面接では緊張して自分が何を話したかすらわからなくなり、言おうとしていたことも言えずに終わってしまいうこともありました。しかし、数をこなしていくうちに雰囲気にも慣れることができるし、自然に話せるようになります。



文学部 英文学科

三貫納 優華

内定先：プリチストンサイクル株式会社

最後になりましたが、就職活動は初めからうまくいく人はなかなかいません。苦労して悩んで成長していきます。自分と向き合い、自分を知る良い機会です。就職活動を振り返った時有意義なものだったと思えるようにしてほしいと思います。その時に自分の思いを

私就職活動において特に意識していたことは、自分の思いをしっかりと伝えることと、普段の生活から礼儀やマナーを大切にするということと、就職試験では面接が一番重要ですが、その時に自分の思いを

私は、三年生のはじめから公務員試験の勉強に励みます。毎日八時間以上勉強することを目標に取り組みしていました。しかし結果はうまく

就職は縁や運だと言う人もいますが、私はそうは思いません。縁も運も結局は努力し、行動したことに結びついていてと思います。就職活動は苦しいです。ただ、苦しいことをどれだけ頑張るか、ここで差が出ると思います。まずは行動してみてください。自分から動くことで自信がつき、顔つきも変わってくると思います。

全国的に厳しい就職状況が続く中、内定を手にした先輩方の体験談をご紹介します。これから就職活動を迎える方にとって貴重なアドバイスとなりますので、是非参考にしてみてください。

就職活動 体験談



短期大学部 英文学科

廣中 絵理香

内定先：札幌中央信用組合

自然に伝えるのが大切だと思います。作った言葉を暗記して話すという方法だとどうしても不自然になってしまったり、答えを忘れたときに言葉につまったりすると思うので、私はその時の自分の言葉で伝えるということを意識して面接に臨んでいました。また、面接では人柄を見られるので、本番の面接の時だけではない、普段から挨拶をしっかりと、基本から挨拶をしっかりと、人の目を見て話すなど、基本的なことができていくことが必要だと思います。当たり前のことのようにですが、こういうことを自然にできるということが大切だと考えていたので普段から心がけるようにしていました。

就職活動は、大変なことがたくさんあって辛くなると思っています。一つ目は、自分のペースを保つことです。友人等が内定をもらいはじめても、ペースを乱さずに取り組みしていくべきです。内定をもらうことが就職活動のゴールではありません。もっと先を見据えて、自分のペースで取り組んでいくべきだと思います。二つ目は準備を怠らないことです。準備を怠れば、企業には熱意は伝わりません。誰よりも、その企業に入りたい気持ちを持ち、誰よりも準備をすることが本番での自信に繋がります。

最後に就職活動は最後まで諦めずに取り組みは必ず道が開けると思っています。内定だけを追い求めるのではなく、自分のペースで取り組んでみてください。

私は、三年生のはじめから公務員試験の勉強に励みます。毎日八時間以上勉強することを目標に取り組みしていました。しかし結果はうまく

就職は縁や運だと言う人もいますが、私はそうは思いません。縁も運も結局は努力し、行動したことに結びついていてと思います。就職活動は苦しいです。ただ、苦しいことをどれだけ頑張るか、ここで差が出ると思います。まずは行動してみてください。自分から動くことで自信がつき、顔つきも変わってくると思います。



社会福祉学部 福祉計画学科

中田 恭平

内定先：北海道国民健康保険 団体連合会

EASCOM
2011年度
東アジア学生交流
プログラム報告



大盛況のアジア屋台



白い恋人パークにてお菓子作り体験

が企画・運営され、学生委員達のバイタリテイには韓国と台湾からの引率教職員も感心することしきりでした。小樽観光では、老舗の寿司屋で生寿司の握り方を直接学び、実際に握って食べてみるという日本人でもなかなかできない経験をしました。また石屋製菓の白い恋人パークでは「私の白い恋人」製作で楽しくお菓子作りをしました。

また、学内でもこの時期の風物詩となった感のある「アジア屋台」では、各大学からの学生たちが腕によりをかけて、ジャージャー麺、ホットック、大根餅などのそれぞれの国のお郷土料理を作り、味も大好評でした。その他にも書道、ヨサコイ体験、北海道開拓記念館や小学校訪問を通じて北海道について理解を深めることができました。

英文学科の異文化コミュニケーションゼミや「サミット」と銘打った討論会では同世代の若者同士で真剣に、話し合う姿が見られました。今年も当プログラムの実施に際し、多大なるご支援いただきました誠にありがとうございました。

学生支援課 前村俊一郎

国内・国外研修報告

アメリカでの研究生活

社会福祉学部准教授
木下 武徳

2010年4月から2011年3月までの1年間、アメリカのカリフォルニア州ロサンゼルスにありすカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (University of California, Los Angeles : UCLA) の社会福祉学部にて研究する機会をいただきました。いまから10年以上前になりますが、大学院生時代、このUCLAで教授をされていた福祉政策・福祉組織論の研究で著名なハッセンフェルド (Y. Hasenfeld) 先生が日本に連れ、講演や講義を受ける機会を得ました。それ以来、毎年、ハッセンフェルド先生は、アメリカ社会福祉政策研究について、理論研究と現地調査の両面で多くのご助言、支援をいただけてきました。今回は、その先生の貧困と社会福祉政策に関する大学院の講義にも参加させていただき、非常に大きな刺激を得ました。1回の講義で3時間通して議論する講義形式に新鮮さを覚えると共に、このような議論の場があるということはやはり大事だと痛感しました。研究面では、久しぶりに洋書に集中して取り組むことができ、また初めて英語論文にも挑戦することができました。どちらも不十分だとは思っていますが、年度内に一つでもやり遂げられることを！とっておりましたので、とりあえずはできて良かったと思っています。

なかでも、アメリカに行って最も良かったことは、同じ領域で研究をしている研究者と生徒といろいろ議論ができたこと、またその友人らに引っ越しや手続き等で混乱している時等にいろいろ助けてもらい、真なる意味で国際的な人のつながりがあるということを実感できたことです。

今回の海外研修は、学部・学科の先生方、事務職員の方、また4年のゼミを受け持つことができなかった学生、そして家族も含めて、多くの方のご協力の下、実施することができました。ここに感謝いたします。これらの経験を糧に、さらに教育、研究に頑張っていきたいと思えます。何卒どうぞよろしくお願ひします。どうもありがとうございました。

国内研修報告

社会福祉学部教授
田澤 安弘

田澤でございます。2010年度に国内外研修の制度を利用させていただき、一年間研修してまいりました。関係各位に感謝し、御礼申し上げます。

私の専門は臨床心理学、カウンセリング心理学の領域です。その領域に、最近になって新しい流派が台頭しつつあります。ちょっと専門的な話しになりますが、それはハーマンスという心理学者の「対話的自己」という考え方を取り込んだ、ポリフォニーないし多声性のカウンセリングです。簡単に言うと、一人の人間がさまざまな声を発し、いくつもの声を心の中に宿しているものと理解する立場でして、極端に言うと、人間とは、矛盾する多様な気持ちを数多く抱えている「超」多重人格なのだという視点に他なりません。

さて、上記のような多声性のカウンセリングの背景には、実はドストエフスキーについて論じるロシアの思想家バフチンや、同じくロシアの心理学者ヴィゴツキーの考えが流れており、この二人の学説を習得することが大切になってきます。もうすでに二人とも他界していますから、ロシアに行って直接教を乞うこともできず、はてさてどうしようか悩みました。

バフチンとヴィゴツキーを学ぶために私が研修先として選んだのは、札幌市内にある北海道大学でした。国内研修というよりも市内研修です。幸運なことに、北大にはこの二人の思想を熟知した研究者が在籍していました。お世話になった佐藤公治先生です。いまは名称も変わりましたが、大学院の昔の教育学研究科所属の教授です。

私学研修員として迎えられ、研究室も北大に貸与されました。ありがたいことです。各国の研究者が集う大部屋の研究室でした。

私が研修期間の一年間に集中したのは、とにかくバフチンとヴィゴツキーの思想を吸収することです。あいにくロシア語は不得手なので、英訳書と和訳書をすべてそろえて、照らし合わせながら読解していきます。佐藤教授にガイドされながら、とにかく蓄積することに専念しました。こんなに文献読解に没頭したのは、生まれて初めての経験でした。朝から晩まで、読書三昧の日々です。

この研修の成果は、これから論文のかたちで発表していく予定です。貴重な時間を与えられたこと、すべての皆様に感謝いたします。

学会報告

第28回 全国語学教育学会北海道支部 (JALT Hokkaido) 研究大会での成果

文学部准教授
江口 均

2011年9月25日(日)に、全国語学教育学会北海道支部 (JALT Hokkaido) の研究大会が本学を会場に開催されました。本学会は、日本における語学教育の向上を目的に、英語のネイティブスピーカーを中心に1975年に設立され、現在では日本人も含めて3000人を超える会員を有する学会です。今年も約100人の参加者で活気あふれる会になりました。

今年の本大会ではバーバラ・ホスキンス・サカモト氏を招き「Better Together: The Power of Connection」という演題で、基調講演を行っていただきました。教員は繋がりを持てば大きな力になる。インターネットが発達した昨今、よりよい教授法を求めて繋がって行くべきだという内容の講演でした。

この大会では過去3年、英文学科の学生に学生スタッフとしてボランティアでお手伝いをしていただきました。設営、道案内、受付、タイムキーパーとして今年も15人の学生が英語を使って働いてくれました。この学生のボランティアの存在がこの研究大会が北星で行われる第一の理由になっています。学生も英語を使いながらお手伝いができるし、発表にも参加できるし、とても積極的に、好意的にお手伝いしてくれるので、とても評判がよく、また来年度も本学を会場に開催できることを願っています。

このように学会のためにも、学生のためにも有意義な会にできたことは、大学後援会のご支援があったからこそであり、感謝を申し上げます。

第15回 北海道地域福祉学会大会を終えて

社会福祉学部教授
杉岡 直人

今年の大会は9月4日に開催され、テーマは「地域包括ケアとまちづくり」でした。大会では、介護保険制度が果たすべき役割、介護保険制度を取り巻く地域社会のあり方、介護と深く関わる医療のあり方、ケアの基盤としての住居のあり方、さらに、家族・親族および地域住民の支え合いのあり方等に関する問題を中心に、学会員および北星学園大学学生および一般市民の参加による盛り上がりを見せました。本学大学院生3名による報告（「小地域ネットワーク活動の類型化に関する一考察」(佐藤)、「社会福祉協議会職員のアイデンティティとしての小地域ネットワーク活動」(日高)、「単身社会化する日本の高齢者福祉の課題—海外の研究動向から」(畠山)）がありました。午後は、基調講演「地域包括ケアの新たな展開」(小山 剛氏：(高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長)を受けて、シンポジウム「これからの地域包括ケアの行方」について、石川秀也北海道医療大学教授のコーディネートのもと、三瓶 徹氏 (北広島市ハビリセンター四恩園 施設長)、飯岡多美子氏 (石狩市地域包括支援センター社会福祉士)、坂本 仁氏 (坂本医院院長) の3名のシンポジストによる話題提供の後、熱い討議が展開されました。終了後は、例年のように20名以上の参加による情報交流会が開催され、一次会が4時間となりました。大学後援会の会員の皆さまにも、新しい地域福祉の創造に向けて共に取り組んで頂きたいと思ひます。後援会の多大なご支援に厚くお礼申し上げます。



全国大会出場報告

武田流中村派合気道部

社会福祉部 福祉計量科 三年

菊川 数馬

私たち武田流中村派合気道部は今年の七月三日に立教大学新座キャンパスで行われた第三十六回学生合気道選手権大会に出場してき

ました。今大会は全国から十一団体、計八十名にも上る学生が集い、個人戦・団体戦・応用自由形の部に分かれ、それぞれ優勝を目指し健闘しました。

個人戦・応用自由形では全国大会という緊張や、技術面での差もあり、北星学園からの参加選手はあまり振るわない結果となりました。

チアダンス部

文学部 英文学科 三年

永山 千尋

私たちチアダンス部STAR RYSは、チアダンスの地区大会(USA Regional Competitions 2011)に出場し、Songleading部門で優勝しました。さらに地区大会通過基



いつも笑顔のSTARRYS

た。ただ団体戦ではチームの結束が個々の試合に影響し、見事ベスト4に入ることができました。しかし準決勝の対千葉学生会戦では二勝二敗により大将戦まで健闘したものの、相手との技量の差によって敗れ、決勝には進めませんでした。その後の三位決定戦では北海道大学と戦いましたが、惜しくも三位に届きませんでした。しかし、参加選手として最も敢闘し、活躍が目立った団体として、敢闘賞をいただきました。

このような貴重な機会に達したため、三月二十六日に幕張メッセで行われるUSA Nationals in Japan 2011という全国大会への出場権を獲得しました。私たちはベスト4を目標とし、練習をしましたが、大会まであとわずかというときに、東日本大震災の影響で大会が五月七日に延期となりました。大会の結果は六位で、目標を達成す



3位決定戦にて

た。また団体戦ではチームの結束が個々の試合に影響し、見事ベスト4に入ることができました。しかし準決勝の対千葉学生会戦では二勝二敗により大将戦まで健闘したものの、相手との技量の差によって敗れ、決勝には進めませんでした。その後の三位決定戦では北海道大学と戦いましたが、惜しくも三位に届きませんでした。しかし、参加選手として最も敢闘し、活躍が目立った団体として、敢闘賞をいただきました。

北星学園大学からの報告

◆オータムコンサート開催される

去る九月十七日(土)、アンサンブルグループ奏楽(そら)によるオータムコンサートが開催されました。

前田朋子さん(ピアノ・チェンバロ)、田島理恵さん(ヴァイオリン)、小林瑠衣さん(ヴァイオリン)、石黒玲さん(ファゴット)、立花雅和さん(フルート)の計五名にご出演いただき、素晴らしい演奏を披露していただきました。当日は一〇五名の聴衆があり、J. S. バッハ「主よ人の望みの喜びよ」、S. ジョプリン「エンターティナー」、G. ガーシユウィン「三つのプレリュード」などが順次演奏されました。次々と重なり合う美しいハーモニーは、会場内に大きく響き渡りました。

大学では、大学後援会、同窓会と協力して今後も皆様に楽しみにしていただける企画を開催していきたいと思っております。



左から立花さん、田島さん、小林さん、石黒さん、前田さん

◆加島祥造講演会開催される

去る十月八日(土)、詩人、墨彩画家として活躍される加島祥造氏による講演会が開催されました。今回のテーマは「求めない・受けいれる。バランス」ということで、加島さんの体験をもとに「求めない」ことの奥深さについてお話ししていただきました。加島さんの気さくな語り口調に会場内はすっかり引き込まれていました。また、今回は講演会と文人画

展を併催しており、参加者の方々には、ひとつひとつの作品を熱心にご覧になられていました。次年度も著名人をお招きしての講演会を企画中です。是非皆さんお誘い合わせの上、ご参加いただけたらと思います。



加島祥造氏

◆チャペルコンサート開催のお知らせ

日時：十二月十一日(日)午後二時から

会場：本校チャペル(参加無料)

出演者：駒ヶ嶺ゆかり(メゾソプラノ)、水月恵美子(ピアノ)、物部憲一(ヴィオラ)

「アドベントの祈り」メランコリーフィナンランド&J. ブラームス」と題して、チャペルコンサートを行います。クリスマスを待つ冬の一日、アドベント(待降節)に寄せる美しい調べをお楽しみください。十二月十日(土)まで受付をしております。参加希望者は「十二月十一日駒ヶ嶺ゆかりコンサート参加希望」とお書きの上、氏名、連絡先電話番号、参加希望人数を明記し、ハガキまたは電話、FAX、Eメールでお申込ください。

お申し込み・お問い合わせ先
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1
北星学園大学総務課内
北星学園大学同窓会事務局 同窓会プロジェクト係
TEL 011-891-2731 FAX 011-892-6097
e-mail: dousokai@hokusei.ac.jp
お祝い 友人、知人の方もぜひお誘いください。
なお、小さなお子さんの入場はご遠慮ください。

スミス・ミッションセンターからのお知らせ

チャペル・クリスマスイベント 2011

【クリスマス礼拝・祝会】

【礼拝】
日時：12月16日(金) 16:30～17:50
会場：北星学園大学チャペル
演奏：米本悦子(オルガニスト)
演奏：チャペル・クワイア、ハンドベル・クワイア、NSBC

【祝会】
日時：12月16日(金) 18:00～
会場：学生会館3階東側ホール
内容：チャペル・クワイア、NSBC、ピースメイキングの演奏、手話サークル・モナミ演奏、ピニャタ割ゲーム他

【クリスマス・チャペルコンサート】 札響コンサートマスター・大平まゆみさんを迎えて

日時：12月19日(月) 12:10～
会場：北星学園大学チャペル
演奏：渡部大三郎(札響OB)、大平まゆみ(札響コンサートマスター)
佐藤郁子(札響)、遠藤幸男(札響)、坪田 亮(札響)
曲目：J.ブラームス：クラリネット五重奏曲 Op.115よりI、II。
M.K.オギンスキー(一柳慧編曲)：ポロネーズ「祖国との別れ」
A.シュッツ(一柳慧編曲)：「モンテカルノの赤い芥子」
G.ガーシュイン：サマータイム クリスマスソング

【ハンドベル・クリスマスコンサート】

日時：12月23日(金・祝) 14:00～
会場：北星学園大学チャペル
演奏：ハンドベル・クワイア
曲目：Air on the G string、A Mighty Fortress、天使の合唱、In the Garden 他

ともに入場無料・申込不要です。
お問い合わせ：総務課 011-891-2731
(内線4146 担当：松本)まで

北星学園大学 教育振興寄付金ご芳名

寄付

募金のご協力に深く感謝申し上げます。
2011年7月1日から
10月31日まで

☆大学・短期大学部 (敬称略)

- 富塚 正道 小林 広明 富田 直樹
- 野田 光雄 大澤 昭仁 梶浦 尚身
- 久井 和博 小鷹 政志 平 通徳
- 柳沼亜子 谷口久美子 藤巻 孝男
- 佐藤 正子 氏家医院
- 北星学園大学S.M.S.ボランティア派遣基金
- 吉井 玲子 樋田繁治郎 伊藤 章
- 古谷 次郎 田村 信一 溝口 雅明
- 宮澤 照恵 佐藤 修子 大原 昌明
- 中野 武治 長澤 武雄 本間 保久
- 田上 正博 山下 信毅 濱本 博美
- 三谷千鶴江 浮田 清輝 藤原真由美
- 宮越 磨耶 高澤千代子 山西 高橋 静江
- 高澤千代子 住田 逸子 小村知江子 高橋 静江
- 新井田二子 山中恵理子 朝倉美恵子 五十嵐 潔
- 山崎 聖 大沼 秀子 中島 涼子
- 尾崎 聖 及川 啓子 岩間美佐子
- 寺山 晏子 山岸 順子 里村とし子
- 丸山 匡恵 仁志貴久江 藤田 早織
- 向原 孝 久道 佳子 坂井智恵子
- 村田 陽二 鈴木知恵子 小野塚哲家
- 猪尾 陽子 堀本知恵子 森田 洋史
- 羽田 常治 堀本知恵子 森田 洋史
- 齊藤 麻里 高橋 孝子 富田 佐保子
- 石井 静子 高橋 孝子 富田 佐保子
- 今 麻美 鈴木 敏子 武谷 けい子
- 二ツ川憲昭 鈴木美千代 武谷 けい子
- 粕谷おかり 宮本 幸章 井上 和子
- 鎌水 容子 白井 良 横山 佳奈
- 小栗 美紀 山崎ひろみ 清水 留子
- 外塚 苑美 篠原 順子 若林 伸二
- 林 ひとみ 三瓶真紀子 小川 壽美
- 池田 理恵 品田 悦子 若林 伸二
- 保本奈保子 橋本真佐子 渡井 宏子
- 斎藤 うめ子 黒田 昌子 渡井 宏子
- 斎藤 郁子 黒田 昌子 渡井 宏子
- 小笠原美和子 木村 謙治 岩谷 美穂
- 杉野 友美 松代 功刀 北川 美紗子
- 菊地美喜子 田辺 恵子 武越 直子
- 永治己須生 山川真幸子 能登三保子 加藤奈穂子
- 山川真幸子 大場 広美 能登三保子 高張美智子
- 吉田 路恵 山木みのる 高張美智子

今年もあとわずかとなりました。お体を大切にして皆様よいお年をお迎えください。
(後援会事務局 大野)